



CHIBA BANK

ミニ・ディスクロージャー誌
平成24年3月期 営業のご報告

2012



第11次中期経営計画

「フロンティア70」について

頭取インタビュー

地域とともに成長を続ける千葉銀行へ

ちばぎんグループのCSR

「ひと」「環境」「産業」の未来を育むCSR活動



CONTENTS

2 第11次中期経営計画「フロンティア70」

3 頭取インタビュー

5 平成24年3月期 業績のご報告

7 資産健全化と再生支援

8 トピックス

9 ちばぎんグループのCSR

13 財務諸表(連結)

15 財務諸表(単体)

17 株式の状況

18 ちばぎんネットワーク

Top
Interview



CSR



千葉銀行のプロフィール (平成24年3月31日現在)

設立	昭和18年3月
拠点	国内: 174店舗(本支店155、特別出張所5、出張所12、仮想店舗2) 店舗外現金自動設備 36,032か所 (うちコンビニATM [E-net] 11,534か所、セブン銀行との提携による 共同ATM 15,161か所、ローソンとの提携によるATM 9,078か所) 両替出張所 3か所 海外: 3店舗(ニューヨーク、香港、ロンドン) 2駐在員事務所(上海、シンガポール)
従業員数	4,308人
総資産	10兆8,585億円
預金	9兆3,765億円
貸出金	7兆5,817億円
資本金	1,450億円
発行済株式数	895,521千株
自己資本比率	連結14.35% 単体13.63%

*諸計数は原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。



当行が契約している銀行法上の指定紛争解決機関

一般社団法人全国銀行協会

連絡先 全国銀行協会相談室 電話番号 0570-017109 または 03-5252-3772



第11次中期経営計画

「フロンティア70」

(計画期間：2011年4月1日～2014年3月31日)

お客さま第一主義の下、地域のお客さまのご期待に応えうる
創造性に溢れた「リテールトップバンク」を目指します。

課題 I

営業態勢の強化

地域における当行の存在感を圧倒的なものとするため、営業担当者の役割の明確化や提案力の強化、積極的な営業展開により、シェアの向上を図ります。

課題 II

地域経済への積極的な貢献

金融円滑化への取組みに加え、地域情報の発信機能の向上や産官学連携に向けた主体的な取組みをつうじ、地域経済の復興・発展に向けた貢献を積極的に行います。

課題 III

経営管理態勢の高度化

コンプライアンスの徹底やリスク管理態勢の高度化により、強固な経営基盤を構築します。さらに生産性向上や大胆なコスト削減を進め、当期純利益の引上げを図ります。

課題 IV

人材育成の充実

研修に加え効果的なOJTを実施するなど、人材育成の手法を改善・充実させます。さらに、職員のスキル・適性に応じた配置や女性職員の登用を積極的に行い、組織力を高めます。

コミットメント150

計画期間3年(150週間)の間に、リテールトップバンクを実現するための取組みを150項目定め、確実に実行します。

- ・従来のやり方や経験に安住することなく、全ての業務を新たな視点から見直します。
- ・全役職員の総力を結集し、スピード感をもって実行します。
- ・実施項目は、進捗状況や外部環境の変化に応じて適宜見直し、常に150項目の取組みを実行していきます。

2013年度計数計画

コア業務純益	単体当期純利益	連結当期純利益	OHR	連結自己資本比率 (パーゼルⅢベース)
880億円	470億円	500億円	50%未満	13%程度

当行は、本計画期間中の2013年3月に70周年を迎えます。

地域とともに成長を続ける千葉銀行へ

大震災後の経済環境について

インタビューア：東日本大震災から1年が経過しました。改めて、震災の影響についてお聞かせください。

頭取：震災直後はサプライチェーンの寸断や計画停電、夏の電力使用制限などにより混乱が見られたものの、各企業の懸命の努力によって生産活動が早期に回復したことや、復興関連予算の執行もあり、景気は緩やかに持ち直しの動きを続けています。

しかしながら、原発事故に伴う風評被害では、観光業や農漁業などの一部で業績の回復が遅れているほか、千葉県の人口が減少に転じるなど、各方面に影響が出ています。そういった意味では、克服すべき課題はなお多く、復興は始まったばかりといえるのではないのでしょうか。当行としても、円滑な資金供給など地域金融機関の役割を果たし、精一杯復興に貢献していきたいと考えています。

高い将来性をもつ千葉県

インタビューア：千葉県の将来性については、どのようにお考えですか。

頭取：千葉県は首都圏の一角として、すでに相応の人口や企業が集積していますが、さらに、つくばエクスプレスや成田新高速鉄道、アクアライン、圏央道などの交通網の整備とともに新たな街が生まれてきています。また、成田空港の発着枠増加や、大規模なアウトレットモールの開業など、数多くの大型プロジェクトも現在進行形で進んでいます。今後、さらなる発展が見込まれる有望なマーケットとして、千葉県の持つポテンシャルは極めて高いといえるでしょう。

平成24年3月期の決算の状況について

インタビューア：平成24年3月期の決算についてはいかがでしたでしょうか。

頭取：千葉銀行グループの決算状況ですが、連



佐久間あすかさん(インタビュー)

千葉県佐倉市出身。四国放送、テレビ大阪のアナウンサーを経て、現在日経CNBC「ASIAエクスプレス」メインキャスター。

結経常利益は前期比16億円増加の669億円、連結当期純利益は前期比1億円増加の407億円と、リーマンショック後3期連続での増益となりました。

また、当行の単体決算ですが、預金・貸出金はともに順調に増加しました。業務純益は、運用利回りの低下等により、一般貸倒引当金繰入前で前期比64億円減少し720億円となりましたが、経常利益は与信関係費用の減少等により、前期比19億円増加の617億円となりました。当期純利益は前期比21億円の減少となりましたが、実効税率変更に伴う影響が▲32億円あり、この特殊要因を除きますと、実質的には前期比で10億円の増益を確保しています。

自己資本比率は、連結14.35%、単体13.63%と高い健全性を維持しています。配当金については、前年度と同額の年11円配当としました。

経営課題について

インタビューア：千葉銀行の経営方針や経営上の諸課題について教えてください。

頭取：昨年4月から、中期経営計画「フロンティア70」がスタートしています。高齢化の進展などに



取締役頭取 佐久間 英利

昭和51年当行入行。市場営業部長、経営企画部長を歴任し、平成15年6月取締役就任、平成21年3月取締役頭取に就任。

より銀行を取り巻く環境は大きく変化しており、前例にとらわれていてはスピード感や競争力が瞬く間に失われてしまいます。「フロンティア70」では、将来の環境変化を前提としたうえで、これに耐えうる磐石な営業基盤や経営基盤を構築していくことを目指しています。また、変化に柔軟に対応していくためには、これまで以上に自ら課題を見出し解決していける人材づくり、態勢づくりが大事だと考えています。

営業戦略・人材育成について

インタビューー：営業面ではどのような取組みをされていますか。

頭取：昨年度は「印西牧の原支店」「越谷レイクタウン支店」「四街道南支店」を新設し、引き続き「広域千葉圏」内の成長地域へ積極的に出店しました。

また、国内市場の縮小が続くなか、お客さまの海外進出の動きが加速しています。当行は、県内金融機関としては唯一、地銀でもトップレベルの3支店、2駐在員事務所の海外拠点を持っていますが、海外の銀行との提携を進めるなど業務をさらに拡充し、アジアなど海外でのお客さまへのサ

ポート態勢を強化しています。

インタビューー：人材育成に関してはいかがでしょうか。

頭取：昨年からは、営業店の行員を対象とした業務別スキルの判定を実施しています。行員一人ひとりの得意分野や教育的課題を「見える化」し、より効果的・計画的な人材育成や的確な人員配置に生かしてまいります。

また、昨年10月には、「女性活躍サポートチーム」を設置し、女性の活躍支援に関する取組みを一層強化しました。

地域経済の活性化に向けて

インタビューー：最後に、千葉銀行が成長を続けていくための方策について、お考えをお聞かせください。

頭取：地方銀行にとって一番大切なのは、地域経済が健全に成長していくことだと思っています。お取引先の企業が元気になり、雇用が安定し、家計の消費が増え、さらに企業が活性化するというプラスの循環が確立されれば、預金や貸出金も増えていきます。したがって、地域経済の活性化に寄与し、「広域千葉圏」のポテンシャルを引き出していくことが、当行にとっての最大の営業戦略であると考えています。

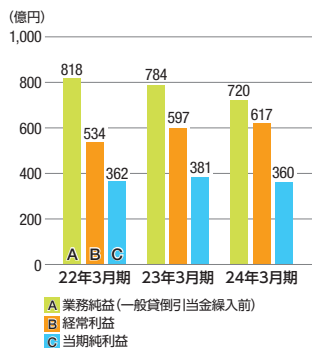
また、当行の持続的な成長の実現に向けて、組織全体で常にお客さまを第一に考えるという姿勢を徹底していく必要があります。そこで、この4月から行内に「お客さまサービス改善委員会」を立ち上げました。お客さまからいただいたご要望やご意見をしっかりと受けとめ、商品やサービスの改善に役立てていきたいと考えています。

これらの施策によって、お客さまからご支持いただける「リテールトップバンク」を目指してまいります。

本日はありがとうございました。

損益の状況

損益の状況



運用利回りの低下による資金利益の減少などから、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は前期比64億円減少し、720億円となりましたが、一方で与信関係費用の減少などにより、経常利益は前期比19億円増加の617億円となりました。なお、実効税率の変更に伴う法人税等調整額の増加などにより、当期純利益は前期比21億円減少し360億円となりました。

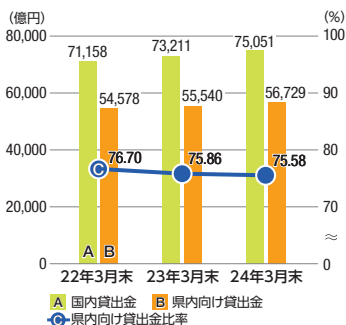
用語解説

業務純益（一般貸倒引当金繰入前）

業務純益（一般貸倒引当金繰入前）とは、預金・貸出金など銀行の基本的な業務の成果を示す銀行固有の利益指標です。これは、預金・貸出金などの収支を示す「資金利益」、各種手数料収支を示す「役務取引等利益」、市場業務取引等の損益を示す「特定取引利益」、債券や外国為替の売買損益を示す「その他業務利益」の4つを合計した「業務粗利益」から、臨時経費を除く「経費」を控除したものです。なお、この業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、損益計算書の中には記載されません。

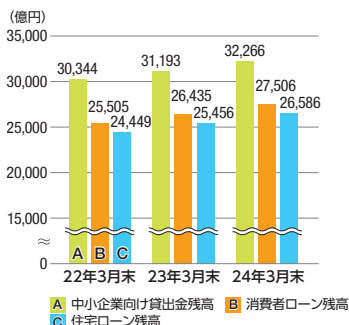
貸出金等の状況

貸出金の状況



地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えした結果、中小企業向け貸出金や住宅ローンが堅調に推移し、国内貸出金は前期比1,839億円増加し、7兆5,051億円、県内向け貸出金は前期比1,189億円増加し、5兆6,729億円となりました。

中小企業向け貸出金・消費者ローンの状況



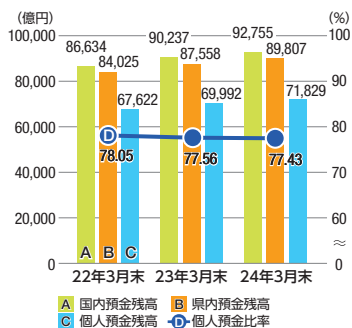
金融円滑化に向けた取組みはもちろんのこと、中小企業のお客さまへのコンサルティング機能の強化に努めました結果、中小企業向け貸出金残高は前期比1,072億円増加し3兆2,266億円となりました。

また、新規出店による営業地域の拡大効果や、お客さまの住宅資金ニーズに積極的にお応えした結果、住宅ローン残高は前期比1,129億円増加し2兆6,586億円となりました。

※中小企業には個人事業主も含めております。

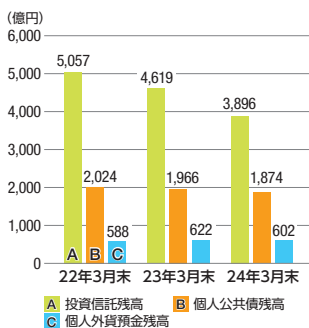
預金等の状況

預金の状況



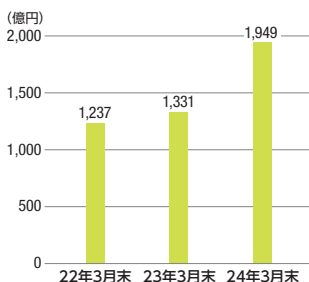
預金につきましては、給与振込口座や年金受取口座など「家計のメインバンク」としてご利用いただくことを目指して活動しました結果、個人預金残高は前期比1,836億円増加し、7兆1,829億円となりました。

投資型金融商品の状況



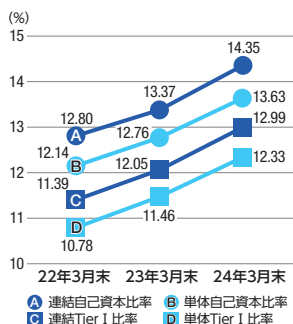
投資信託残高は前期比722億円減少し、3,896億円となりました。一方で、お客さまのご要望に応じた商品提案を行なった結果、個人年金保険の取扱保険料は、前期比618億円増加し、1,949億円となりました。

個人年金保険 (取扱保険料) の状況



自己資本比率等の状況

自己資本比率・Tier 1比率



当行の自己資本比率は、ちばぎんグループ連結で14.35%、ちばぎん単体で13.63%となり、海外に拠点を持つ銀行に求められる国際統一基準8%以上を充たす十分な水準にあります。また、Tier 1比率は、連結では12.99%、単体で12.33%となりました。

用語解説

自己資本比率

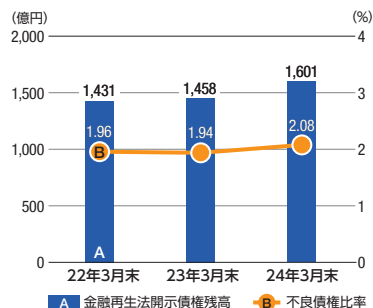
金融機関の健全性を示すものとして最も広く用いられている指標です。当行のように海外に営業拠点を持つ銀行は、自己資本比率を国際統一基準である8%以上にすることが求められています。

金融再生法開示債権の状況

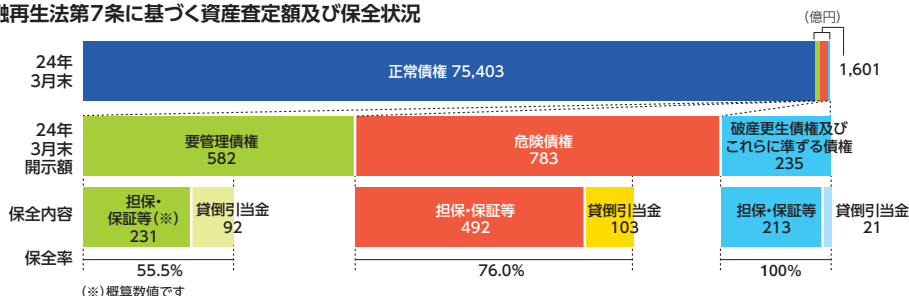
平成24年3月末時点の金融再生法開示債権残高は1,601億円となり、不良債権比率は2.08%となっています。

引き続き営業店と本部が連携し、中小企業再生支援協議会等の外部機関も活用しながら、お客さまの経営改善に向けた取組みの支援を進めてまいります。

不良債権の推移



金融再生法第7条に基づく資産査定額及び保全状況



用語解説

要管理債権

「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」を除く3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権です。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権です。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

金融円滑化に向けた取組み

当行は、地域金融機関として金融サービスの提供をつうじて、地域のお客さまのニーズにお応えし、地域の発展に貢献するという役割・使命を果たす姿勢を堅持しています。特に、地域への円滑な資金供給をはじめとする金融仲介機能の強化やお客さまへの経営健全化支援等による地域密着型金融の実践については、従来から最も重要な経営課題として位置づけ、各種施策に積極的に取り組んでまいりました。

このようななか、現在の厳しい経済・雇用環境や、お客さまのお借入負担の状況などに鑑み、より一層お客さまの声に真摯に耳を傾け、適切にお客さまのご相談に対応してまいります。また、中期経営計画にも掲げる「お客さま第一主義」を徹底し、今後もコンサルティング機能を発揮した営業展開を実践してまいります。

トピックス

店舗オープン・移転のご紹介

お客さまに便利でやさしく、安心してご利用いただける店舗づくりを積極的に行っています。

..... 印西牧の原支店 四街道南支店 木更津東支店・木更津支店



オープン日：平成23年12月19日
住所：印西市牧の原1丁目3番地

地域の中核商業施設「牧の原モア」敷地内に位置し、駅より徒歩1分の優れた立地であるなど、お客さまがご来店しやすく便利な店舗となっています。



オープン日：平成24年2月20日
住所：四街道市和良比247番地1

資産運用相談の専門窓口「コンサルティングラウンジ四街道南」を設置し、お客さまのマネープランについてじっくりとご相談いただける環境を整えています。



木更津東支店
移転日：
平成23年11月7日
住所：
木更津市はたる野
4丁目4番地9



木更津支店
移転日：
平成24年2月27日
住所：
木更津市大和
1丁目2番4号

発展が見込まれる木更津市「はたる野」地区に木更津東支店を、旧木更津東支店の建物へ木更津支店を移転し、より多くのお客さまにご利用いただけるようになりました。

振り込め詐欺防止に向けた取組み

当行では、千葉県警察と連携して金融犯罪被害防止活動に取り組んでいます。今般、千葉県警察本部監修のもと小冊子「振り込め詐欺にだまされないために」を作成しました。本冊子では、振り込め詐欺の手口や被害にあわないための注意点等をイラストを使用してわかりやすく解説しています。

当行の店頭などに備えています。



ATM業務提携の拡大

当行は、お客さまの利便性向上を図るため、地方銀行5行（常陽・筑波・東京都民・武蔵野・横浜）とATMのお客さま利用手数料の割引に関する提携をしており、平成24年4月には、新たに山梨中央銀行と提携を開始しました。これにより、手数料割引サービスをご利用いただける拠点が更に広がりました。



「小さな親切」運動への取組み

東日本大震災で被災した方々を支援するために、当行及びグループ会社の役職員・OBは、「小さな親切」運動が実施する取組みに積極的に参加しています。

- ▶総額約11百万円を寄付(平成24年3月31日現在)
- ▶被災した子どもたちにクリスマスプレゼント615個を寄贈





ちばぎんグループのCSR

ちばぎんグループにおける取組み

ちばぎんグループは、本業等をつうじて全てのステークホルダーの皆さまからの期待にお応えするとともに、持続可能な地域社会の実現に貢献できるよう「グループCSR活動方針」を掲げ、グループ役職員一丸となってCSR活動に取り組んでいます。

グループ CSR 活動方針

ちばぎんグループは、持続可能な地域社会実現のため、金融仲介機能の発揮等の本業に加え、誠実かつ公正な企業活動、気候変動等の環境問題など地域社会を取り巻く様々な課題解決に向けた活動等に、グループ役職員一人ひとりが当事者という意識を持って、積極的に取り組んでまいります。

そして、これら当行グループの取組みの情報開示をつうじ、ステークホルダーの皆さまとのより良い関係作りに注力いたしますとともに、「新たな地域社会の姿」を皆さまと描いてまいります。

ちばぎんグループのCSRコンセプト

ちばぎんグループは、持続可能な地域社会実現のため、CSR活動に積極的に取り組んでまいります。

お客さま満足度(CS)の向上 コンプライアンス

金融仲介機能の発揮 (本業)

地域密着型金融の推進、金融円滑化への対応等、地域への円滑な資金供給に注力してまいります。

地域社会への貢献 (社会貢献活動)

「未来を育む」をキーワードに、「ひと」「環境」「産業」の育成に資する社会貢献活動を展開してまいります。

人材育成の強化

役職員一人ひとりが、お客さまのニーズに的確にお応えできる意識・スキルを身に付けてまいります。

ひとの 未来を育む



ちばぎんひまわりコンサート

地域のお客さまと音楽をつづじてふれあうことを目的に、平成元年より「ちばぎんひまわりコンサート」を開催しています。毎回多彩なアーティストを迎え、魅力あふれるステージをお届けしています。



第44回(平成23年11月12日)の模様。津軽三味線を演奏する上妻宏光さん



第45回(平成24年4月14日)の模様。フルートを演奏する山形由美さん



「エコノミクス甲子園」千葉大会

平成23年12月、県内の高校生を対象に金融経済に関するクイズ選手権「エコノミクス甲子園」千葉大会を千葉興業銀行と共同で開催しました。県内12高校から21チーム、42名の学生が参加し、熱戦が繰り広げられました。



ちばぎんカップ

平成24年2月、Jリーグのプレシーズンマッチ「第18回ちばぎんカップ ジェフユナイテッド市原・千葉VS柏レイソル」が開催されました。当日は、約300名の障がい者の方と、東日本大震災で被災した県内7市区の小・中学生約700名をご招待しました。



金融教育の普及

金融教育の普及を目的に、小・中・高校生を対象に職場体験の受入れや、金融教育の出張授業を実施しています。また、大学での冠講座の提供や、学校の先生を対象とした銀行業務・接客等に関する研修も実施しており、ご好評をいただいています。



本店見学



小学校への出張授業

毎年7～8月に職場体験を受け入れており、銀行業務のご紹介や電話応対・名刺交換の体験のほか、本店内やATM等の見学も実施しています。少しでも銀行を身近に感じていただけたらと思います。



環境の未来を育む



21世紀金融行動原則への署名

本原則は、「持続可能な社会の形成」を目的に、環境省や金融機関で構成される起草委員会により策定されたもので、当行は本原則の趣旨に賛同し、署名しました。引き続き、環境保全など地域社会への貢献に努めてまいります。

役職員・OBによる美化・緑化活動

当行役職員・OBで構成するボランティア組織「Vネットクラブ」では、九十九里浜・印旛沼をはじめ県内各地でのクリーンウォーク活動や、店舗周辺の清掃活動を行っています。



九十九里浜

環境に配慮した店舗作り

二酸化炭素を削減するため、新設・移転店舗を中心に太陽光発電システムや屋上緑化の導入を進めています。また、本部車輛を中心にハイブリッド車への切替えを進めているほか、電気自動車を導入しました。



太陽光発電システム



屋上緑化

環境格付融資制度 (ちばぎんエコステップ)

平成24年4月より、環境に配慮した経営を行うお客さまを支援するため、「環境格付融資制度」の取扱いを開始しました。本制度では、お客さまの環境に対する取組みを客観的に評価した「環境格付」に応じて融資金利の割引を行います。

評価項目 本業でのエコプロダクツ・エコサービス、CO₂排出量の削減、リサイクル対策、環境マネジメント体制、生物多様性保全など

「ちばぎんの森」森林整備活動

二酸化炭素を吸収する緑を育む活動として、富津市鬼泪山や長生郡白子町にて森林整備活動を行っています。



当行では、「環境の未来を育む」活動の1つとして、平成15年3月から「ちばぎんの森」森林整備活動を継続しています。役職員・OBボランティアのほか、地域の皆さまにもご協力いただき、森を育て、環境保全に努めています。



	ちばぎんの森(第1)	ちばぎんの森(第2)	ちばぎんの森(第3)
場 所	千葉県富津市鬼泪山		千葉県長生郡白子町
取組内容	森林整備(山林)		森林整備(海岸保安林)
取組時期	平成15年3月～平成17年3月～		平成22年3月～
植樹内容	ヒノキ3,600本	ヒノキ3,600本	クロマツ等4,000本
育樹活動	植樹後5年間、当行役職員・OBボランティアによる下草刈り等の育樹活動を行い、以後5年間業者による育樹活動を実施		植樹後5年間、地域の皆さま、当行役職員・OBボランティアによる下草刈り等の育樹活動を実施

産業の 未来を育む



千葉市との地域経済活性化に関する 連携協定の締結

平成23年11月、千葉市と地域経済活性化に関する連携協定を締結しました。本協定により、国際経済交流の推進や企業立地支援、創業・新事業創出支援、地産地消・農工商連携の推進、観光振興などについて幅広く協力して取組み、地域の振興に貢献してまいります。



ひまわりベンチャー育成基金

千葉県内のベンチャー企業支援を目的に、平成10年より助成金交付事業を展開しています。平成24年2月までの助成先累計は145先、交付総額は435百万円となりました。



各種商談会・セミナーの開催

お客さまの販路拡大や地域経済の発展を目的に、各種商談会・セミナーを開催しています。今後も、ビジネスに関する情報や商談機会の提供等、お客さまのビジネスを積極的にサポートしてまいります。

H23年	①	②	③	④	⑤⑥	⑦⑧	H24年	⑨⑩	⑪⑫
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1月	2月	3月

①ちばぎんマルシェ

東日本大震災による風評被害を払拭し、県内の農業生産者・食品加工業者を応援する千葉県農産品販売フェア。



②中国主要都市ビジネスセミナー

中国の5都市で開催した中国ビジネスに関するセミナー。

③ちばぎんアグリ商談会

県内の農業生産者と食品関連企業との商談会。農業生産者が新鮮な農産物をPR。



④第1回海外進出セミナー

タイの投資環境と日系企業の動向をテーマとしたセミナー。

⑤ちばぎん省エネ・ECOセミナー

省エネに関する正しい情報と手法を提供するセミナー。

⑥第2回海外進出セミナー

ベトナムでの事業戦略をテーマとしたセミナー。

⑦地方銀行フードセレクション2011

地方銀行36行と合同で開催した食の展示商談会。出展企業が試飲・試食をつうじて自社商品を紹介。



⑧上海ビジネス交流会 実務セミナー

中国駐在員のマネジメント等をテーマとしたセミナー。

⑨貿易支援セミナー

貿易を開始する際に必要不可欠な物流の実務における基本と、貿易に伴うリスクの回避方法をテーマとしたセミナー。

⑩上海ビジネス交流会(総会)2012

2012年の中国経済の展望と課題をテーマとしたセミナーを開催。また、参加企業間の交流会及び個別商談会を実施。

⑪第3回海外進出セミナー

インドネシアの投資環境等をテーマとしたセミナー。

⑫FOODEX JAPAN 2012

アジア最大級の食品・飲料専門展示会。千葉県ブース(当行・千葉県・千葉県産業振興センター共同ブース)から21社が出展し、千葉県食材等をPR。



お客さまの夢(事業戦略)と悩み(経営課題)をお聞かせください。私たちが、ビジネスにつながる各種商談会やセミナーの企画運営をつうじて、全力でサポートします。



■ 連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	平成23年3月末	平成24年3月末	科目	平成23年3月末	平成24年3月末
(資産の部)			(負債の部)		
現金預け金	569,455	473,117	預金	9,103,649	9,338,244
コールローン及び買入手形	54,700	74,621	譲渡性預金	171,586	301,371
買現先勘定	9,996	29,992	コールマネー及び売渡手形	23,797	34,095
買入金銭債権	37,137	30,995	売現先勘定	14,998	—
特定取引資産	284,635	327,044	債券貸借取引受入担保金	50,776	77,347
金銭の信託	28,929	28,899	特定取引負債	26,674	29,403
有価証券	1,920,113	2,106,492	借入金	256,709	162,635
貸出金	7,346,143	7,554,923	外国為替	480	229
外国為替	3,034	2,205	社債	40,000	40,000
その他資産	100,099	93,810	その他負債	100,237	132,840
有形固定資産	96,469	98,567	退職給付引当金	19,238	19,531
建物	22,576	22,897	役員退職慰労引当金	229	228
土地	66,005	65,817	睡眠預金払戻損失引当金	950	1,522
建設仮勘定	2,299	2,089	ポイント引当金	1,065	397
その他の有形固定資産	5,587	7,763	特別法上の引当金	18	17
無形固定資産	9,751	10,221	繰延税金負債	—	113
ソフトウェア	5,805	6,716	再評価に係る繰延税金負債	15,158	13,240
その他の無形固定資産	3,946	3,504	支払承諾	101,429	101,464
繰延税金資産	49,839	34,506	負債の部合計	9,926,998	10,252,684
支払承諾見返	101,429	101,464			
貸倒引当金	△ 58,747	△ 50,101	(純資産の部)		
			資本金	145,069	145,069
			資本剰余金	123,380	123,591
			利益剰余金	344,884	376,039
			自己株式	△ 6,358	△ 8,480
			株主資本合計	606,975	636,220
			その他有価証券評価差額金	△ 1,115	13,268
			繰延ヘッジ損益	△ 1,259	△ 1,549
			土地再評価差額金	7,548	9,393
			その他の包括利益累計額合計	5,174	21,112
			新株予約権	108	231
			少数株主持分	13,732	6,511
			純資産の部合計	625,990	664,076
資産の部合計	10,552,989	10,916,760	負債及び純資産の部合計	10,552,989	10,916,760

■ 連結損益計算書 (単位: 百万円)

科 目	(平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで)	(平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで)
	平成23年3月期	平成24年3月期
経常収益	223,649	222,014
資金運用収益	152,315	146,549
貸出金利息	130,604	126,162
有価証券利息配当金	20,571	18,764
コールローン利息及び買入手形利息	171	158
買現先利息	38	32
債券貸借取引受入利息	4	—
預け金利息	375	947
その他の受入利息	549	484
信託報酬	2	1
役務取引等収益	40,035	40,445
特定取引収益	1,614	1,987
その他業務収益	7,116	5,979
その他経常収益	22,563	27,052
貸倒引当金戻入益	—	2,161
償却債権取立益	—	3,274
その他の経常収益	22,563	21,615
経常費用	158,308	155,071
資金調達費用	13,975	11,644
預金利息	8,156	5,690
譲渡性預金利息	301	262
コールマネー利息及び売渡手形利息	118	140
売現先利息	29	4
債券貸借取引支払利息	167	184
借入金利息	1,017	1,023
社債利息	761	735
その他の支払利息	3,423	3,603
役務取引等費用	15,110	15,495
その他業務費用	799	3,193
営業経費	88,017	88,381
その他経常費用	40,405	36,355
貸倒引当金繰入額	5,804	—
その他の経常費用	34,601	36,355
経常利益	65,340	66,943

科 目	(平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで)	(平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで)
	平成23年3月期	平成24年3月期
特別利益	5,934	3,421
固定資産処分益	446	12
負ののれん発生益	—	3,408
償却債権取立益	5,478	—
金融商品取引責任準備金取崩額	9	0
特別損失	1,108	879
固定資産処分損	547	740
減損損失	317	139
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	243	—
税金等調整前当期純利益	70,166	69,485
法人税、住民税及び事業税	21,405	20,579
法人税等調整額	7,302	7,417
法人税等合計	28,708	27,997
少数株主損益調整前当期純利益	41,458	41,487
少数株主利益	847	716
当期純利益	40,611	40,770

■ 貸借対照表 (単位:百万円)

科目	平成23年3月末	平成24年3月末
(資産の部)		
現金預け金	569,198	472,367
現金	125,992	103,430
預け金	443,206	368,936
コールローン	50,000	69,621
買現先勘定	9,996	29,992
買入金銭債権	28,459	21,468
特定取引資産	284,217	326,779
商品有価証券	9,061	9,957
商品有価証券派生商品	—	6
特定金融派生商品	26,889	29,829
その他の特定取引資産	248,266	286,985
金銭の信託	25,729	25,799
有価証券	1,920,351	2,111,610
国債	866,913	1,064,937
地方債	323,250	361,251
社債	264,965	224,898
株式	141,608	142,381
その他の証券	323,613	318,142
貸出金	7,371,452	7,581,708
割引手形	22,620	24,531
手形貸付	170,692	163,012
証書貸付	6,572,872	6,845,619
当座貸越	605,267	548,543
外国為替	3,034	2,205
外国他店預け	2,156	1,163
買入外国為替	190	585
取立外国為替	686	456
その他資産	57,553	47,752
未決済為替貸	814	0
前払費用	93	73
未収収益	11,297	10,677
先物取引差入証拠金	46	54
先物取引差金勘定	12	—
金融派生商品	16,115	10,014
その他の資産	29,174	26,932
有形固定資産	91,028	93,301
建物	20,971	21,341
土地	63,086	62,898
建設仮勘定	2,292	2,070
その他の有形固定資産	4,678	6,990
無形固定資産	9,586	10,067
ソフトウェア	5,660	6,576
その他の無形固定資産	3,925	3,491
繰延税金資産	42,049	27,043
支払承諾見返	75,415	78,052
貸倒引当金	△ 47,493	△ 39,255
資産の部合計	10,490,582	10,858,514

科目	平成23年3月末	平成24年3月末
(負債の部)		
預金	9,138,396	9,376,500
当座預金	175,434	191,609
普通預金	5,078,354	5,355,091
貯蓄預金	242,828	241,022
通知預金	6,330	6,465
定期預金	3,479,875	3,443,395
その他の預金	155,572	138,916
譲渡性預金	171,586	301,371
コールマネー	23,797	34,095
売現先勘定	14,998	—
債券貸借取引受入担保金	50,776	77,347
特定取引負債	26,668	29,403
商品有価証券派生商品	13	—
特定金融派生商品	26,654	29,403
借入金	255,810	161,682
借入金	255,810	161,682
外国為替	480	229
売渡外国為替	435	194
未払外国為替	44	35
社債	40,000	40,000
その他負債	67,797	95,650
未決済為替借	6	1,453
未払法人税等	12,013	8,811
未払費用	12,620	10,380
前受収益	2,707	2,297
先物取引差金勘定	—	6
金融派生商品	17,862	13,205
資産除去債務	227	227
その他の負債	22,359	59,268
退職給付引当金	18,747	19,011
睡眠預金払戻損失引当金	950	1,522
ポイント引当金	808	145
再評価に係る繰延税金負債	15,158	13,240
支払承諾	75,415	78,052
負債の部合計	9,901,391	10,228,252
(純資産の部)		
資本金	145,069	145,069
資本剰余金	122,134	122,678
資本準備金	122,134	122,134
その他資本剰余金	—	544
利益剰余金	323,197	349,589
利益準備金	50,930	50,930
その他利益剰余金	272,267	298,659
固定資産圧縮積立金	—	33
別途積立金	230,971	260,971
繰越利益剰余金	41,296	37,654
自己株式	△ 6,358	△ 8,038
株主資本合計	584,042	609,298
その他の有価証券評価差額金	△ 1,250	12,888
繰延ヘッジ損益	△ 1,259	△ 1,549
土地再評価差額金	7,548	9,393
評価・換算差額等合計	5,039	20,732
新株予約権	108	231
純資産の部合計	589,190	630,262
負債及び純資産の部合計	10,490,582	10,858,514

■ 損益計算書 (単位: 百万円)

科 目	(平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで)	(平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで)
	平成23年3月期	平成24年3月期
經常収益	197,328	200,156
資金運用収益	151,626	146,163
貸出金利息	129,777	125,491
有価証券利息配当金	20,864	19,184
コールローン利息	166	152
買現先利息	38	32
債券貸借取引受入利息	4	—
預け金利息	375	947
その他の受入利息	399	356
信託報酬	2	1
役務取引等収益	31,717	32,428
受入為替手数料	7,523	7,426
その他の役務収益	24,194	25,001
特定取引収益	1,144	1,445
商品有価証券収益	21	222
特定金融派生商品収益	554	804
その他の特定取引収益	568	418
その他業務収益	7,109	5,975
外国為替売買益	1,929	1,479
国債等債券売却益	4,760	4,128
金融派生商品収益	419	366
その他の業務収益	0	0
その他經常収益	5,726	14,140
貸倒引当金戻入益	—	4,937
償却債権取立益	—	3,249
株式等売却益	474	326
金銭の信託運用益	655	377
その他の經常収益	4,596	5,250

科 目	(平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで)	(平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで)
	平成23年3月期	平成24年3月期
經常費用	137,541	138,387
資金調達費用	13,967	11,628
預金利息	8,186	5,703
譲渡性預金利息	301	262
コールマネー利息	118	140
売現先利息	29	4
債券貸借取引支払利息	167	184
借入金利息	1,009	1,019
社債利息	761	735
金利スワップ支払利息	3,247	2,961
その他の支払利息	145	615
役務取引等費用	17,603	17,913
支払為替手数料	1,510	1,471
その他の役務費用	16,093	16,442
その他業務費用	799	3,193
国債等債券売却損	731	285
国債等債券償還損	—	2,889
国債等債券償却	67	17
営業経費	82,844	83,329
その他經常費用	22,327	22,322
貸倒引当金繰入額	3,353	—
貸出金償却	11,416	9,626
株式等売却損	1,414	8,673
株式等償却	3,653	871
金銭の信託運用損	317	432
その他の經常費用	2,170	2,719
經常利益	59,786	61,768
特別利益	5,452	7
固定資産処分益	—	7
償却債権取立益	5,452	—
特別損失	1,053	798
固定資産処分損	520	691
減損損失	304	107
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	227	—
税引前当期純利益	64,185	60,977
法人税、住民税及び事業税	18,417	17,974
法人税等調整額	7,642	6,994
法人税等合計	26,059	24,969
当期純利益	38,125	36,007

株式の所有者別状況

平成24年3月31日現在

区分	株主数 (人)	所有株式数 (単元)	割合 (%)	
政府・地方公共団体	2	9	0.00	
金融機関	117	393,656	44.20	
金融商品取引業者	34	18,277	2.05	
その他の法人	1,336	137,227	15.41	
外国法人等	個人以外	428	205,809	23.10
	個人	—	—	—
個人その他	25,055	135,793	15.24	
計	26,972	890,771	100.00	

(注) 1. 1単元の株式数は1,000株です。なお、上記のほか、単元未満株式は4,750,087株となっております。
 2. 自己株式15,721,963株は「個人その他」に15,721単元、単元未満株式に963株含まれております。なお、自己株式15,721,963株は株主名簿上の株式数であり、期末日現在の実質的な所有株式数は15,720,963株です。
 3. 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

毎年6月

基準日

定時株主総会の議決権：毎年3月31日

期末配当：毎年3月31日

中間配当：毎年9月30日

公告方法

電子公告

(当行ホームページ <http://www.chibabank.co.jp/>)

ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人・事務取扱場所

〒103-8202

東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号

日本証券代行株式会社 本店

お問い合わせ先 ☎0120-707-843

大株主上位10名

平成24年3月31日現在

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	55,535	6.20
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	38,408	4.28
株式会社三菱東京UFJ銀行	35,414	3.95
日本興亜損害保険株式会社	29,998	3.34
日本生命保険相互会社	29,270	3.26
第一生命保険株式会社	26,230	2.92
住友生命保険相互会社	17,842	1.99
明治安田生命保険相互会社	15,891	1.77
千葉銀行職員持株会	12,505	1.39
株式会社千葉銀行	10,187	1.13

(注) 1. 上記の他、株式会社千葉銀行名義の自己株式15,720千株(1.75%)があります(株主名簿上は、株式会社千葉銀行名義となつていますが、実質的に所有していない株式1千株を除く)。
 2. 所有株式数は千株未満を切り捨てております。
 3. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は小数点第3位以下を切り捨てております。

株主優待制度

対象株主 毎年3月31日現在、1,000株(1単元)以上保有の株主

株主優待制度の内容

オリジナルカタログ(毎年6月送付予定)から千葉県の特産品等または当行及びちばぎんグループの金融商品・サービスの優待*が受けられる株主優待クーポンのいずれかを、保有株数に応じて、お選びいただけます。

保有株数	1,000株以上 10,000株未満	10,000株以上
優待商品	千葉県の特産品等 3,000円相当または 株主優待クーポン1枚	千葉県の特産品等 6,000円相当または 株主優待クーポン2枚

※金融商品・サービスの優待は次の1~5のいずれか1つをお選びいただけます。

1. 定期預金1年もの店頭表示金利(年)0.2%上乘せ(1枚につき1回限り500万円が上限)
2. 外国通貨両替手数料20%割引(1枚につき1回限り割引後レートで日本円100万円相当分の両替が上限)
3. 遺言信託引受予諾手数料20%割引
4. ちばぎん証券の国内上場株式売買委託手数料20%割引(1枚につき10,000円が上限)
5. ちばぎん総合研究所主催セミナー受講料20%割引(1枚につき1回限り10,000円が上限)

株式会社 千葉銀行

〒260-8720 千葉市中央区千葉港1-2

TEL.043-245-1111 (代表)

<http://www.chibabank.co.jp/>

平成24年6月発行



この印刷物は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認定されました。

